IV－9

河川におけるアメニティの変遷に関する研究
―京都鴨川の納涼床を対象として―

京都大学大学院　学生員　田中尚人　京都大学大学院　正会員　川崎雅史
京都大学大学院　正会員　山田圭二郎　京都大学大学院　学生員　牧田　通

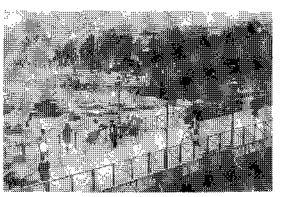
0. はじめに

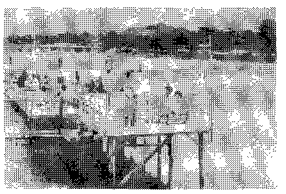
近年、河川景観に関して様々な議論が起こっているが、河川内や河川に隣接する局所的な景観デザインの議論に終始しているものが多いように思われる。河川景観を論ずるにあたっては、まず第一に我が国の気候風土の中では優先的に考えられるべき河川の「治水」機能から要請された河川の空間骨格の成立過程を把握する必要がある。そして、そこで成立してきた景観の変遷を理解し、その中に構造物や都市の要素がいかに収まってきたかを考察すべきであると考える。

1. 研究の目的

京都の鴨川においては、時にこの治水と並立して、親水の機能が治水上の必要条件を満たしつつ保たれてきたと思われる。本研究は、このような、河川の本来的な機能を全て果たすアメニティを象徴する要素として鴨川に継承されてきた納涼床を対象に、絵図・写真等の歴史的な文献資料とヒアリング調査等をもとに、治水による鴨川の空間骨格の変化に伴う納涼床の形態の変遷と、納涼床を通して見た鴨川におけるアメニティの変遷を記述することを目的とする。

鴨川の納涼床についての既往研究としては、山崎[1]らの研究があるが、本研究の特徴は河川におけるアメニティを、景観的要素や構造物の変遷だけではなく、河川景観の成立基盤でありながらこれまであまり焦点の当たらなかった、治水による空間骨格の変遷との関わりにより論ずるところにある。





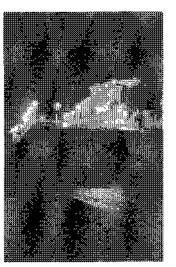


写真-1　写真-3
写真-2

写真-1　四条大橋東北詰、明治25（1824）
写真-2　明治中期の納涼床の風景
以上、写真集成『京都百年パノラマ館』淡交社、1992.7　より
写真-3　現在の納涼床（1997.8、筆者撮影）

2. 鴨川の空間骨格の変遷

はじめに、京都府京都土木事務所、京都府立総合資料館等より、『京都市水害史』[2]等の鴨川の治水に関する土木史的な資料を収集した。防災面等鴨川の水害に着目した既存の研究としては、村本[3]、中島[4]らの論文を参照した。本章では、治水・利水・親水の全てを含むアメニティの基盤となる鴨川の空間骨格を歴史的に把握するために、築堤や河川改修等の主要な治水工事の歴史を文献資料から整理し、鴨川四条河原付近の断面変化を下図にまとめた。（図-1参照）

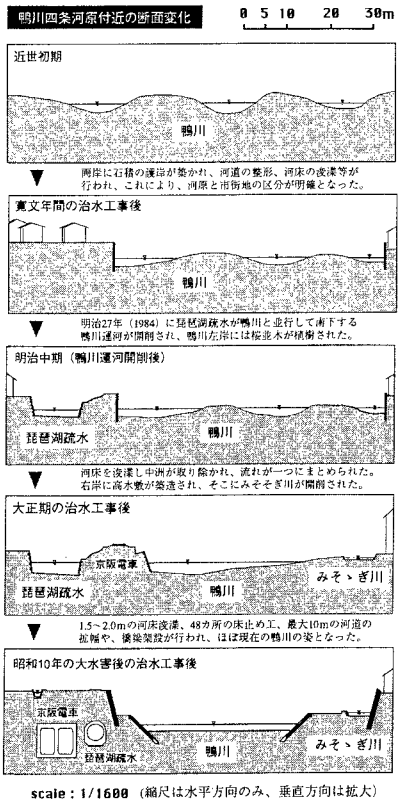


図-1　鴨川四条河原付近の河道断面の変遷図
（ひずみ縮尺断面図、筆者作成）

Key Words：河川景観、アメニティ、土木史
連絡先　：京都大学大学院工学研究科　環境地球工学専攻　人間環境設計学講座
〒606-8501　京都市左京区吉田本町　Tel＆Fax　075-753-5123

3. 納涼床の形態の変遷

納涼床は夏の鴨川の景観を特徴づけ、また涼をとる先人の知恵を今に伝える貴重な伝統的仮設構造物であるが、今日見られるような形態となるまでには、鴨川の治水による空間骨格の変化に伴い、いくつかの変化が見られた。本章では、納涼床が出現した近世初期からの文献資料や絵図・写真（**写真**参照）等、また納涼床を出している先斗町界隈の飲食店15店舗に対し行ったヒアリング調査をもとに、納涼床の形態の変遷を前章の鴨川の空間骨格の変遷と併せて整理（**図-2**参照）し、鴨川におけるアメニティについて考察した。

4. 結論

本研究の結論として、以下の主要な２つを挙げた。

(1) 納涼床 ― 自然と触れあう装置として

納涼床は、河原の広場化とともに出現し、鴨川の治水による空間骨格の変化に伴い、現在見られるような形態へと変化してきた。人々の水辺のアメニティ利用も時代により変化してきたが、納涼床は京都鴨川の伝統として常に人々の活気で溢れ、身近な自然である鴨川を鑑賞し親しむ装置として存在し続けたきた。

(2) みそゝぎ川[5] ― アメニティの基盤施設として

みそゝぎ川は、鴨川の治水・利水の本来的な機能を果たした上で、人々に水辺の楽しみを享受させるアメニティの基盤施設として存在してきた。つまり、みそゝぎ川は都市と河川との境界であり、納涼床から対岸の街並み、そして東山の山並みへと続く広がりを持った京都鴨川の景観の成立基盤となってきたのである。

5. おわりに

本研究では、鴨川の中でも四条河原付近を中心に取り扱っているが、鴨川におけるアメニティについて本来的に考えるには、もっと広域的に治水、利水、親水について検討する必要があることを感じ、今後の研究課題としたい。また、文献資料、絵図・図面・写真等の資料については、可能な限りの一次資料の収集を行ったが、今後より一層の充実を図るため、絵図、写真、文献資料等の調査を続けたいと考えている。

謝辞：本研究は、多くの方々に御協力をいただいた。京都大学大学院工学研究科水工学分野の村本嘉雄教授、細田尚助教授には鴨川の治水史に関する貴重な資料、アドバイスをいただいた。京都府京都土木事務所の中川学様には文献資料の収集に関して多大なる御支援をいただいた。そして、鴨涯保勝会会長の森川良彦様や先斗町・木屋町で納涼床を出していらっしゃる店舗の方々にはヒアリング調査に非常に協力的に応じていただいた。ここに深謝の意を表す。

参考文献

1) 山崎正史：鴨川と町なみ景観、京都市都市景観整備ローカルプラン調査報告書、京都市計画局、1989.3
2) 京都市役所：京都市水害史、1936
3) 村本嘉雄：河川と都市の歴史 ―京都鴨川の水害と治水、河川、（社）日本河川協会、1992.6
4) 中島暢太郎：鴨川水害史(1)、京都大学防災研究所年報第26号、B-2、1983
5) 京都府：鴨川及高野川改修計畫竝に鴨川改修に附帯する事業計畫、1938.7

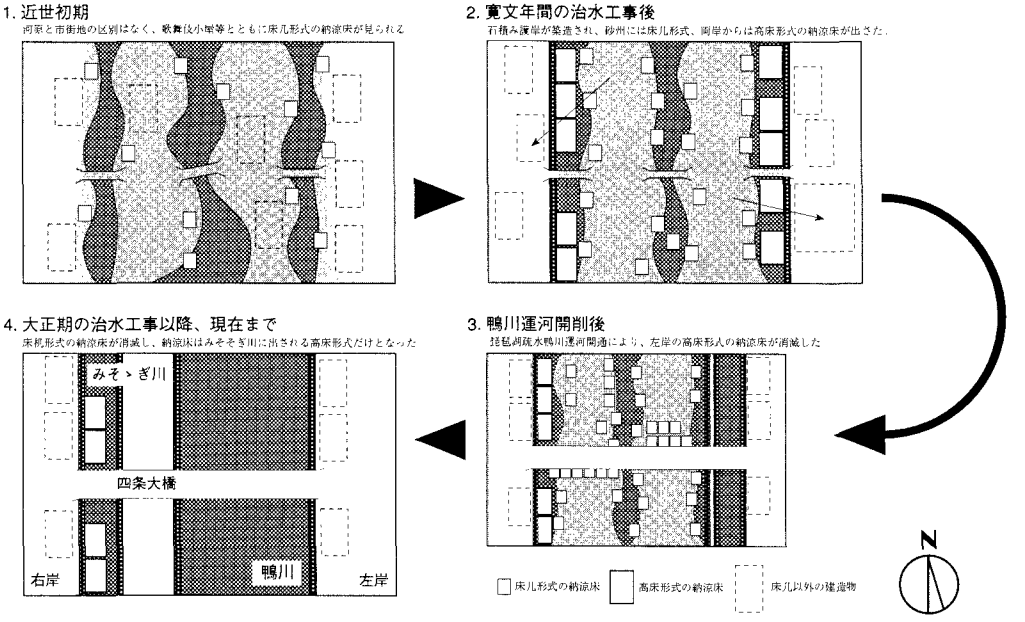


図-2 鴨川四条河原付近の納涼床の配置の変遷図（平面模式図、筆者作成）